# 日高の野菜・花き生育情報

新冠町・新ひだか町・浦河町・様似町・えりも町
≪５月中旬～６月上旬≫

令和７年５月１５日発行
第１号
日高農業改良普及センター本所
Tel：0146-42-1489
Fax：0146-42-2521

**【作物共通】**

①この時期は気象の日変化が大きく、急な強風、低温や降霜があるため、気象情報に十分注意しましょう。

②ハウス内は昼夜の気温差が大きいため、高温障害や低温障害に注意しましょう。ハウス内の気温が上がる晴天時は、換気を十分に行いましょう。ただし換気時間に注意し、夜間の温度が確保できるようにしましょう。

③夜間はハウスの出入り口や地際の隙間を塞ぎ気密性を高めるとともに、被覆資材を２層、３層にするなど保温を強化しましょう。

④被覆継続している越冬ハウスでは、アブラムシ類やハダニ類、アザミウマ類の早期発生事例が見られます。発生状況を十分に確認し、薬剤散布による発生密度の低減を図りましょう、また被害葉の除去や防虫ネットの利用により周囲への飛散を防止しましょう。

**【野　菜】**

| 作物名 | 生育状況・管理のポイント | 病害虫・生理障害等 |
|---|---|---|
| ピーマン<br>無加温半促成<br>品種：みおぎ | ・生育は草丈がやや短い傾向となっています。作業は１～２番花の摘花、脇芽とり、支柱立てが行われています。<br>・前年より生育が５～７日程度遅く、前々年並の生育となっています。４月下旬の低温期に、一部のほ場で下葉の老化現象が見られていました。<br>・昼夜の温度差が大きい時期です。日中の気温 25℃、最低気温 15℃以上を目標に、ハウス換気等こまめな温度管理を行いましょう。 | ・一部のほ場でアブラムシ類の発生が見られています。今後も害虫の早期発見・早期防除を徹底しましょう。<br>・６月上旬は斑点病防除の開始時期です。軟弱徒長傾向のほ場では特に警戒し、予防防除で発生を抑えましょう<br> <br>【斑点病の症状】 |
| ミニトマト<br>３月定植<br>品種：キャロル10 | ・４月の曇天により一部で徒長および茎径が細い傾向が見られました。また、花房についても段数によっては少ない状況も見られます。<br>・作業は収穫や脇芽整理、摘心作業が行われています。<br>・着果負担の大きい時期です。促成栽培の収穫終了までに肥大が間に合わない花は摘花して、負担軽減を図りましょう。 | ・着果段数の増加に伴い、加里欠乏症状が一部で見られます。必要に応じて追肥を実施しましょう。<br> <br>【加里欠乏の症状】 |

| | | |
|---|---|---|
| いちご<br>夏秋どり<br>(高設栽培)<br>品種：すずあかね<br>すずりっか | ・生育はおおむね順調に推移していますが、４月の低温、日照不足により平年と比較してやや緩慢です。<br>・作業は順次、ランナー除去、摘葉、摘芽などの株管理が行われています。<br>・５月上旬より花上げが始まり、株への負担が掛かる時期です。給液濃度の EC は 0.6mS/cm を目安に管理しましょう。 | ・気温の上昇に伴い、ハダニ類が発生し始めます。一部ほ場ではスポット的にハダニ類の発生が確認されており、今後の拡大が懸念されます。株の状態をこまめに観察し、発生を確認次第、適切な薬剤防除を行いましょう。<br>・ハウス周辺の雑草を除去しましょう。<br> <br>【ハダニ類による被害】 |

**【花　き】**

| 作物名 | 生育状況・管理のポイント | 病害虫・生理障害等 |
|---|---|---|
| デルフィニウム<br>ハウス作型 | ・生育は、ほ場や品種にもよりますが、やや緩慢な傾向となっています。<br>・作業は順次、定植～採花が行われています。<br>・日照不足の影響による葉の老化現象や軟弱徒長の傾向が見られています。今後、灰色かび病が発生しやすくなりますので防除を徹底し、ハウス・選花場の通気性を確保しましょう。<br>・昼夜の気温較差により株が弱りやすいため、かん水は少量多回数管理を心がけましょう。 | ・気温の上昇に伴い、ハダニ類、アザミウマ類、アブラムシ類など多発しやすい状況となります。予察・早期防除を徹底しましょう。<br> <br>【ハダニ類による被害】 |

**★農薬を使用する場合は、必ず使用基準を守りましょう★**